

◎教会員の急減でカナダの教会が“消滅”の懸念

【バンクーバー＝ENI・CJC】カナダの教会が教会員の急減で、“消滅”の危機に向かう所も出ている。

聖公会では1961年には136万人いた教会員が2001年には64万2000と53%も減少している。年間1万3000人の減少割合がこのまま続けば21世紀半ばまでに消滅という事態になる、とマーケティング専門家キース・マッケラチャー氏は言う。

合同教会では104万人から63万8000人と39%減少、長老教会は35%、バプテスト7%、ルーテル派4%といずれも減少している。カトリック教会員については変化率データが得られなかったと言う。

合同教会地域宣教支援担当のハリー・ウッソレン牧師は「カナダだけでなく、西欧世界全体で見ても、個人化した宗教に比べて制度宗教は人々の生活にとって重要でなくなっている」と言う。

「小規模の非キリスト教信仰グループが増え人気も集めている」と、『宗教的寛容に関するオンタリオ・コンサルタンツ』グループは指摘する。

「無神論者、不可知論者、ヒューマニスト、世俗主義者、無宗教者の割合が急増している。多くのカナダ人は、自分たちが特定の宗教、宗教団体または宗派の支持者であると認めるが、もはや礼拝には出掛けない」と言う。

聖公会に関しては、教会員の主要部分を占めて来た白人の英国系アメリカ人と英国系のカナダ人の出生率減少が問題の根底にある、との指摘もある。

ウッソレン牧師は、伝統的保守的教派でも下降傾向が見られるとして、2001年の調査ではメソナイト派7・9%、ペンテコステ派15・3%、エホバの証人8・1%とそれぞれ減少した、と語った。

◎米キリスト教保守派団体が同性愛擁護の企業をボイコット

【CJC＝東京】米キリスト教保守派団体が同性愛者の権利を擁護する企業に圧力をかけている。

『アメリカン・ファミリー・アソシエーション』（AFA）は、同性愛者の社員を雇用し、同性カップルに福利厚生を提供し、「ジャガー」や「ランドローバー」の広告を同性愛者向け雑誌に掲載している、として大手自動車メーカー『フォード・モーターズ』に対するボイコット運動を展開していた。

AFAはこのほど、ボイコット停止を発表した。詳細は明らかにされていないが、フォードが来年から同性愛者雑誌への広告出稿中止を決定したことを、圧力を掛けた結果と評価している。フォードは「ボイコットとは関係のない企業決定」と説明しており、「ボルボ」の広告は続ける、という。

また『フォーカス・オン・ザ・ファミリー』も、同性愛者擁護団体に5万ドルの支援金を提供したとして、米銀行5位『ウェルズ・ファーゴ』との取り引きを止めた。

AFAは、同性カップルに福利厚生を提供し、テーマパーク内で同性愛者関連イベントを行っているとして、娯楽大手の『ウォルト・ディズニー』をボイコットしたことがある。ただ来園者数や収益面での影響は出なかった。